

# 国内の標準化に関する審議体制について

平成 23年 2月 10日  
情報通信審議会 技術分科会

## 情報通信審議会議事録(抜粋)

① ただいま情報通信政策部会より報告がありましたように、ICT分野における標準化を取り巻く環境というものが最近大きくグローバルに変化しているわけですので、例えば標準化の組織としてもITUに加えてフォーラム標準であるとか、あるいはデファクト標準の組織等、政策の対象にすべき範囲が大きく変わってきていると思います。また、標準化の検討の進め方とか、あるいは検討体制のあり方につきましても、今、村井臨時委員からもご紹介がありましたように、環境変化に対応した見直しが必要ではないかという趣旨のご意見がたくさん出ているように思います。

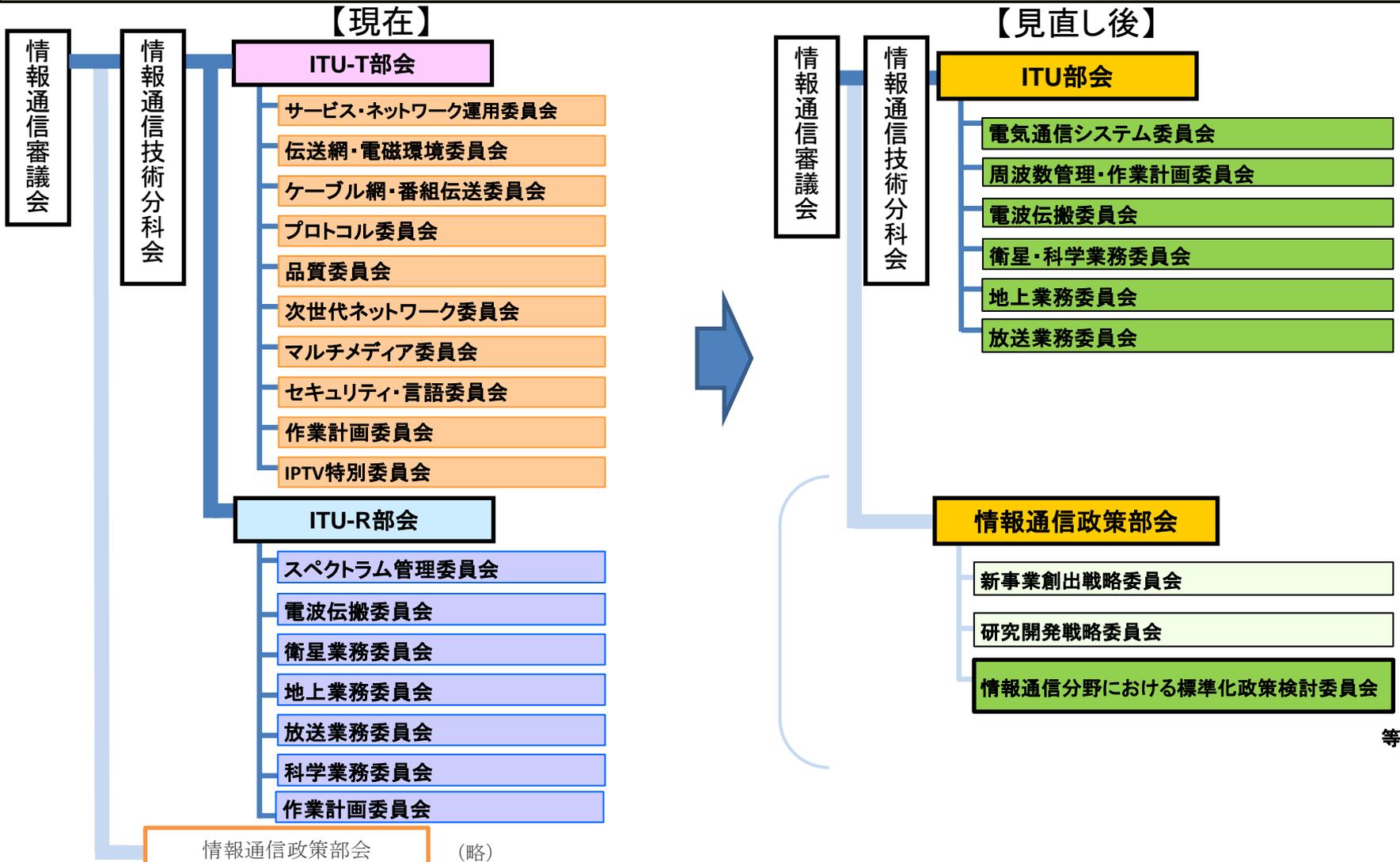
そこで、情報通信審議会といたしましても、ITUを対象とした現在の標準化の審議体制について、見直し、検討が必要であろうと考えます。具体的内容につきましては、ITUへの対処について所掌しております情報通信技術分科会で、ご検討をお願いしたいと思いますけれども、この話は日本全体の競争力にも大きく影響するものだと考えますので、現在のITUへの対処の検討体制をスリム化するということに加えて、広い範囲で効率的かつ効果的な対応が可能になるように検討いただければと思います。

(平成22年7月5日総会第24回 大歳 卓麻会長)

② ご指摘のとおり、国際標準に向けて、従来はITUを中心という形だったんですけれども、それ以外の展開が非常に増えてきた。これはご指摘のとおりですし、それに加えてICTそのものの分野というのが、エネルギー、環境、交通、そういった分野に大きく展開してきたという、ご指摘以外のことも考えていかなければいけないということで、我々の技術分科会の対応体制というのはご指摘のとおり見直す時期に来ている。ということで、我々は早期にこれを見直して対応できるように、あわせてこの議論と並行して迅速な対応をしたいと思っております。

(平成22年7月5日総会第24回 坂内 正夫会長代理 (技術分科会長))

- ◆ 現状の体制は、ITU-T, Rに設置されるSG毎に、2部会、17の委員会が設置。ITUの会議の「情報共有」や、「日本としての提案」等を検討。
- ◆ 「デジタル化」「IP化」に伴う「技術動向」や「専門性」の変化、「スリム」で「スピード感ある検討」の実現等の観点から、以下の方向で再編。



等